

平成29年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第8号(11月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（平成29年10月19日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	多い	平年並か少ない

○特に注意すべき病害虫

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
果樹類 野菜類 花き類	アザミウマ類	多くの作物で成虫・幼虫の多発生が確認されているので、防除に努める。

○11月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	10月の発生量 (現況)	11月の 増減傾向	増減傾向の根拠
カンショ	① ナカジロシタバ	多	→	幼虫数の例年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。
	② イモキバガ	やや多	→	幼虫数の例年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	↗	芯枯茎率の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
	② メイチュウ類 (イネヨトウ)	並	↗	芯枯茎率の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
かんきつ (温州みかん)	① かいよう病	並	↗	台風による風傷の増加、今後1ヶ月の降水量が多い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。
	② そうか病	多	↗	発生葉率の平年の発生推移から、10月より発生量が増加すると考えられる。
	③ アブラムシ類	並	↘	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は減少すると考えられる。
	④ ミカンハモグリガ	並	→	寄生葉率の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ ハダニ類	やや多	→	今後1ヶ月の降水量が多い見通しから、10月と同程度の発生量と考えられる。
かんきつ (タンカン)	① かいよう病	並	↗	台風による風傷の増加、今後1ヶ月の降水量が多い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。
	② 黒点病	(発生なし)並	↗	発病果率の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
	③ そうか病	(発生なし)並	→	発病果率の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。
	④ アブラムシ類	並	→	今後1ヶ月の降水量が多い見通しから、10月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ ミカンハモグリガ	多	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
	⑥ ハダニ類	多	→	今後1ヶ月の降水量が多い見通しから、10月と同程度の発生量と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○11月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	10月の発生量 (現況)	11月の 増減傾向	増減傾向の根拠
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	やや多	↘	成虫・幼虫数の平年の発生推移、新梢の発生が終息傾向にあることから、10月より発生量は減少すると考えられる。
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↘	発生株率の平年の発生推移、新梢の発生が終息傾向にあることから、10月より発生量は減少すると考えられる。
	③ ハダニ類	並	↗	雌成虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
ピーマン	① 斑点細菌病	並	↗	発病株率の平年の発生推移および、今後1ヶ月の降水量が多い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。
	② ミナミキイロアザミウマ	多	↗	成虫数の平年の発生推移及び、今後1ヶ月の気温が高い見通し、幼虫の発生もみられたことから、10月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ヒラズハナアザミウマ	多	↗	成虫数の平年の発生推移及び、今後1ヶ月の気温が高い見通し、幼虫の発生もみられたことから、10月より発生量は増加すると考えられる。
	④ チャノキイロアザミウマ	多	↗	今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ ホコリダニ類	(発生なし)並	↗	寄生株率の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
トマト	① 黄化葉巻病	並	→	発病株率の平年の発生推移及び、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月と同程度の発生量と考えられる。
	② タバココナジラミ	並	↗	成虫数の平年の発生推移及び、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ハモグリバエ類	並	↗	寄生葉率の平年の発生推移及び、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。
小ギク (年末出荷用)	① アザミウマ類	多	→	成虫数の平年の発生推移から、発生量は10月と同程度と考えられる。
	② アブラムシ類	多	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、発生量は10月と同程度と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
ピーマン	スイカ灰白色斑紋ウイルス	発生が確認された。ミナミキイロアザミウマが媒介するので防除を行う。
トマト	すすかび病	10月下旬の調査の結果、発病株率は7.2%(前年8.6%)で昨年並の発生であった。多発すると防除が困難になるので、発生前に予防散布を行う。多湿条件や過繁茂は避ける。

平成29年度 宮古群島 病害虫発生予報 第8号(11月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（平成29年10月19日発表：沖縄气象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	多い	平年並か少ない

○11月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	10月の発生量 (現況)	11月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① アオドウガネ	やや多	→	幼虫数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。
	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	↗	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
	③ メイチュウ類 (イネヨトウ)	並	↗	芯枯茎率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↘	成虫・幼虫及びトラップの平年の発生推移、新葉の発生が終息傾向にあることから、10月より発生量は減少すると考えられる。
	② マンゴーハフクレタマバエ	(発生なし)やや少	↗	発生株率の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ハダニ類	(発生なし)並	↗	雌成虫数の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。
かぼちゃ	① ウイルス病	(発生なし)並	↗	発病株率の平年の発生推移、アブラムシが発生していることから、10月より発生量は増加すると考えられる。
	② アブラムシ類	並	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。
	③ タバココナジラミ	多	→	成虫数の平年の発生推移、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、10月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	新植夏植ほ場で黒穂病の発生が確認された。 発病株は早期に抜き取り処分する。また発生ほ場から採苗を行わない。
	野そ	平年の被害率の発生推移から、野その増加が懸念される。 管理されない耕地等で繁殖するので、ほ場周辺も含めて除草等を行う。 多発地域では一斉防除を行う。

平成29年度 八重山群島 病害虫発生予報 第8号(11月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(平成29年10月19日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	多い	平年並か少ない

○11月の発生予報(八重山群島)

作物	病害虫名	10月の発生量 (現況)	11月の 増減傾向	増減傾向の根拠
水稻	① スクミリングガイ	並	→	貝数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。
	② 葉いもち病	並	↗	発病株率の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
	③ 斑点米カメムシ類	並	↘	虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は減少すると考えられる。
	④ コブノメイガ	多	↘	被害株率の平年の発生推移から、10月より発生量は減少すると考えられる。
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	並	↗	芯枯莖率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	並	↗	芯枯莖率の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↘	成虫・幼虫数及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移、新梢の発生が終息傾向にあることから、10月より発生量は減少すると考えられる。
	② ハダニ類	やや多	↗	雌成虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
オクラ	① うどんこ病	並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
	② フタテンミドリヒメコバイ	多	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。
	③ アブラムシ類	並	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、10月より発生量は増加すると考えられる。
	④ チョウ目幼虫	(発生なし)やや少	→	幼虫数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値: 過去5~10年間の発生量の平均値
- 例年値: 過去3~4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	新植夏植ほ場で黒穂病の発生が確認された。 発病株は早期に抜き取り処分する。また発生ほ場から採苗を行わない。
	野そ	平年の被害率の発生推移から、野その増加が懸念される。 管理されない耕地等で繁殖するので、ほ場周辺も含めて除草等を行う。 多発地域では一斉防除を行う。

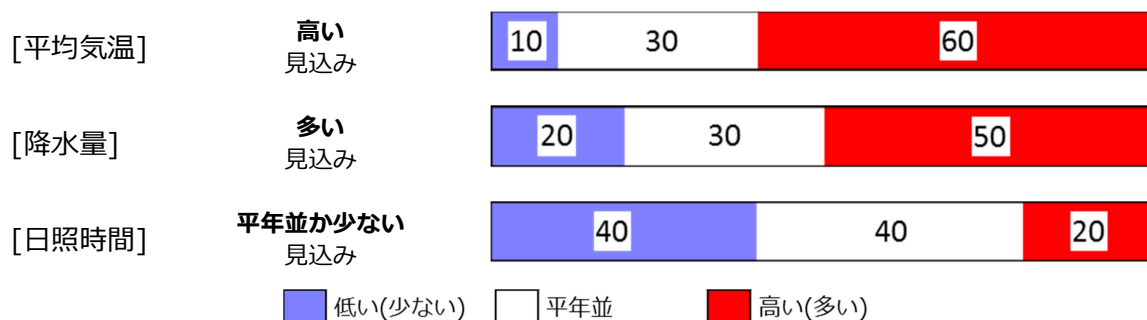
向こう1か月の天候の見通し
沖縄地方（10月21日～11月20日）

- 気象予報のポイント
 - 向こう1か月の天候は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
 - 台風第21号や湿った空気の影響で、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。
 - 暖かい空気に覆われやすく、向こう1か月の平均気温は高いでしょう。



気象庁マスコットキャラクター
はれるん

○ 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

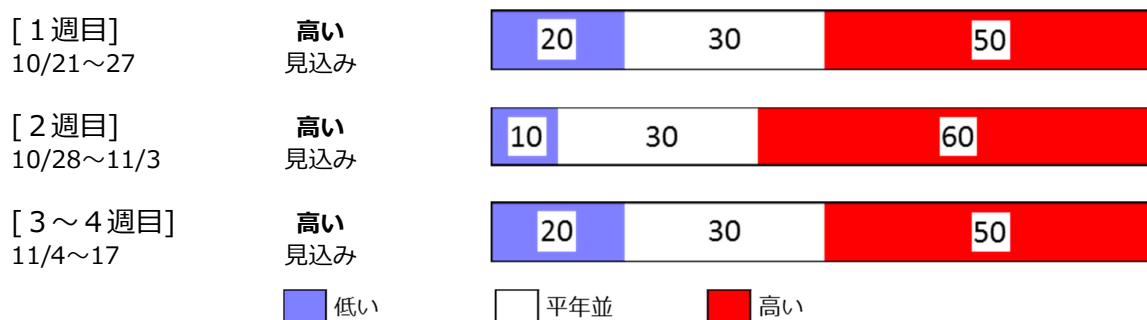


数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
沖縄地方	平年差：-0.3～+0.3℃	平年比：69～109%	平年比：94～109%
那覇	22.9～23.8℃	62.2～118.9mm	119.1～142.6時間

○ 週別の平均気温



数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1週間）	平均気温（2週間）	平均気温（3～4週間）
沖縄地方	平年差：-0.5～+0.5℃	平年差：-0.5～+0.5℃	平年差：-0.3～+0.5℃
那覇	23.8～24.9℃	23.1～24.2℃	22.2～23.3℃

※ 沖縄地方の平年差（比）は、那覇・久米島・宮古島・石垣島・与那国島の5地点平均値です。
 ※ 平年並の範囲は、過去30年間（1981～2010年）の値から統計的に求めています。